２０１５－２０１６年度　　長期派遣留学生

報告書

ROTARY YOUTH EXCHANGE

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2640

国際ロータリー第2640地区

～日本とアメリカの架け橋～

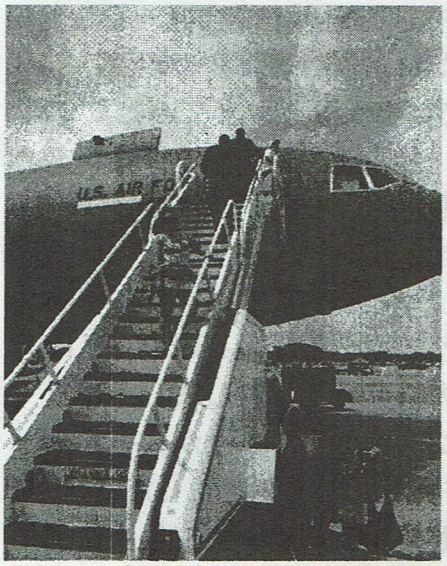
石川愛佑美

一年間、留学のチャンスを与えていただきありがとうございました。この一年は、私にとって、一番濃く、努力の年でした。初めの半年間、毎日ホームシック,言語の壁との戦いでつらかったです。友達を作ろうと思い、ランダムに話しかけてもみましたが、私の発音が通じず、結局仲良くなれず、、、前半の六か月間は、この辛いことが永遠続くんじゃないかと思っていました。唯一の救いは、日本にいる家族と友達が私を支えてくれた事、私のホストファミリーが日本に興味があり、英語が通じない私にも積極的に話しかけてくれた事でした。休みの日にはホストファミリーとトランプをしたり、買い物に行ったりして過ごしました。１０月にはThanks Givingという収穫感謝の行事で親戚が集まったり、３１日にはHalloweenもあり、日本ではあまりしない、trick or treatingをホストシスター達と一緒にdevilの仮装をして近所を歩き回りました。日本ではできない楽しくて特別な経験をさせていただきました。私の留学していたアメリカのネブラスカ州は田舎で、私の住んでいる大阪とは全く違います。例えば、私の州には、電車が動いていなかったり、カラオケやスポーツセンターなどの施設ももちろんなく、不便に感じることもありましたが、ずっと住んでいるうちにネブラスカがどんどん好きになっていきました。

２つ目のホストファミリーは、１つ目のファミリーとはまた違い、とても賑やかな家庭でした。ホストマザーとファザーは離れて暮らしているので、私はホストシスターとブラザーと一緒に１週間ずつ両方の家を行き来しました。日本ではあまりないことなので最初は毎週のパッキングで大変でしたが、それが逆に毎週新たな気持ちになれるような気がして楽しくなってきました。ホストファザーは、アメリカ人って感じの、とてもフレンドリーでジョークが好きな楽しい人でした。最初のほうは、ホストファザーのジョークやアメリカの古くからある、“knock knock joke”も理解できず、作り笑いをしていましたが、最後には分かるようになり、一緒に家族の一員のように楽しく過ごしました。ホストマザーは私のこと、私の性格をよく理解してくれていて、友達があまりいなかった私をほぼ強制で、ホストシスターとブラザーが毎年参加している学校のミュージカルのオーディションに連れていき、ダンスと歌ができたおかげで合格できた私のことを自分のことのように喜んでくれました。そのミュージカルがきっかけとなり、留学の中で自分が一生懸命頑張ってやり遂げて誇れる思い出、信用できる大切な友達がたくさんでき、半年間どうしても好きになれなかった学校も楽しいと感じるようになりました。休みの日には、ミュージカ

ルのキャスト３０人くらいでパイを３つくらい買って公園に集まり、スプーンで食べたりというようなアメリカならではの楽しい経験もできました。毎日練習が夜の１０時頃まであり、体力的には大変でしたが、私の留学の思い出がどんどん増えていく、楽しい時間でした。皆と話しているうちにどんどん英語が話せるようになり、留学のなかで一番充実していたことといっても過言ではないくらい、いい経験になりました。

こういう、私の大きな成長のきっかけとなった機会を無理やりにでも与えてくれ、支えてくれた、本当の家族のようなホストファミリーにはとても感謝しています。留学前は、たくさんの友達とのキラキラした学校生活など、楽しいことばかりを想像していた私ですが、実際一人でアメリカを見てみたら、つらいこと、上手くいかないこともたくさんありました。日本でも Yes,No をはっきりできない私がアメリカに行き、自分の意見、意志を英語で伝えられるようになり、そして伝えられる勇気を持てたのが自分の目標達成にも繋がったと思います。留学で得た自信、勇気、ホストファミリーたちが教えてくれたポジティブさ、そして英語力を維持し、大学生、社会人となっていくなかであきらめない強さを自分自身の力、人に伝えていけたらなと思います。



本当に、留学準備にかかわってくれたすべての人、チャンスを与え、サポートしてくださったロータリーのみなさん、そして自分が弱っているときにいつも味方になってくれ、留学の機会を与え、賛成してくれた家族には感謝しています。ありがとうございました。

２０１６.７.２８

帰国までの日にちも数えられるほどとなりました。旅行から帰ってからはできるだけ時間を無駄にしないよう、友達に声をかけて出かけるようにしています。ですがサットンズベイは観光地で、夏は高校生は仕事で忙しい日々なのでみんなに会える日も限られています。そんな中、去年ドイツからサットンズベイ高校に留学していた女の子が遊びに来ています。彼女のホストファミリーは私のクラスメイトだったので、何度か一緒に遊びに行きました。

サットンズベイから車で15分ほどの所にある街、トラバースシティーでは毎年7月のはじめにナショナルチェリーフェスティバルが1週間に渡って開かれます。湖のほとりにある駐車場やオープンスペースを利用して、店を出したり小さい遊園地をつくったりなど、とても楽しいです。私は友達と一度そこの遊園地に行ったのですが、Zipperという乗り物に連れて行かれ、気絶するほど怖かったです。また、フェスティバルはダウンタウンで行われるので、この1週間は街がひとで溢れます。サットンズベイやトラバースシティーには複数の家を持つ人が多く、夏のみをここで過ごす人が多くいます。加えて、この辺りは湖が綺麗で観光地です。そのため、夏は小さな街が人々で賑わいます。

私の帰国を10日前にして、私ともう1人の留学生ラッセもとうとう7月8日の飛行機でドイツに帰ってしまいました。1年間同じ学校に通い、遊んだりスポーツなど何でも一緒に乗り越えてきた親友と離れ離れになるのは不安で仕方ありませんでした。数日たった今も胸に穴が空いたように寂しいですが、2人ともまたサットンズベイに遊びに来る、もしくはお互いの国を訪れ再会する日が来るので、それまでは電話やメッセージなどで今まで通り仲良くいられたらなと思います。空港まで見送りには行けなかったのがただ１つの心残りです。

7月の8,9,10日の3日間を通して、Crntral Stater Rotary Summer Conferenceが、ミシガンのグランドラピッツにあるカルビンカレッジで行われました。Central States Rotaryとは、アメリカミシガン州、ウィスコンシン州、イリノイ州、カナダのオンタリオ州などを含めた7つの州から18の地区が参加する大きなカンファレンスです。参加者は、インバウンド、アウトバウンド、リバウンド、ローテックス、ロータリアン、合わせて1000人にもなりました。帰国寸前にしてさらに新しい友達ができ、また今までの友達とももっと仲良くなれました。別れは寂しかったですがこれは永遠のさよならではなく、また会う日までのさようならです。私を含め、たくさんのインバウンドたちは自分の第2の故郷に近いうちに帰ってきます。それに、たくさんの行くべき国が

できました。日本に来たいと言ってくれた友達も多く、再会が待ちきれません。

Final Report～New Jersey, USA～

倉山朗子

こんにちは。田辺東ロータリークラブからアメリカ、モントゴメリーロータリークラブに派遣させて頂いた倉山朗子です。この度は交換留学生として、アメリカのニュージャージー州に派遣させて頂きました。この 1 年間のアメリカ留学は、私にとってとても貴重な体験ができたものであり、この留学を通して、たくさんの経験を得ることが出来ました。これから、私が親善大使として、アメリカでどのような活動をしたか、どれだけの役目を果たせたかについて、詳しくお話ししようと思います。

まず初めに、ニュージャージー州は私が住む和歌山県田辺市にとても似た環境の地でした。たくさんの木々があり、たくさんの自然を感じられる場でありました。また、ニュージャージー州はアメリカの中でも東海岸側で、ニューヨークまでたったの 1 時間というとてもラッキーな州でもありました。「ニュージャージー」と聞くと、皆さんは何を想像されますか？「牛乳！」「新しいジャージ？」このような想像をされた方はいませんか？残念ながら、ジャージは有名ではありませんが、牛乳を作る元となる牛は有名でした。通学中も牧場が見えたり、農家がたくさんありました。モントゴメリーはたくさんの自然とふれあうことができる地域でした。

そのモントゴメリーの中で滞在する中、私が一年間通った Montgomery High School。この学校は本当に大きな学校で、生徒の数も多く、また日本でいう中学 3 年生からこの学校に通い始めます。私がアメリカの学校に通う中、一番大変だったのが友達を作ることでした。初日に学校に行ったとき、中国人や韓国人に間違われました。最初は全く会話ができず、「あれだけ英会話も習ってきたのに」などと思うことが多かったです。話しかけられても答えることが出来ませんでした。

そんな私が、たくさんの友達を作るきっかけになったのが、音楽でした。私は五歳のころから音楽に興味を持ち始め、舞台に立って人前で歌うのが大好きでした。中学の頃は、三年間吹奏楽部に入部し、クラリネットを吹きました。Montgomery High School には、吹奏楽の授業があり、選択させて頂きました。人数も多く、この学校の吹奏楽のクラスでは、必ず一人ずつ実技テストを受けなければなりませんでした。私も自分のクラリネットを持って実技テストを受けました。最初は怖くて不安でしたが、やるからには精一杯やろうと思いました。一週間後にテストの結果とともに、座る席も決まります。その時、吹奏楽の先生が「Saeko」

と呼びました。そして、指定された席に座りました。すると周りの子たちが、「日本から来

た子だよね！？来たばっかりなのに首席なんてすごいね！」「日本語教えてね！」など、みんなからすごいと褒められました。今考えると、音楽をやってて良かったなと改めて思います。音楽をやっていなかったら、友達を作るきっかけも無かっただろうし、こんなに楽しく留学生活を送ることも出来ていなかったと思います。

また、モントゴメリーロータリークラブは15年前にも、大阪からの交換留学生を引き取っています。その交換留学生が、15年前にアメリカ、ニュージャージー州モントゴメリーで亡くなられた柴谷由美さんでした。私はアメリカに行く前から由美さんの話は聞いていましたが、モントゴメリーロータリークラブの方がより詳しく説明して下さいました。由美さんの夢は、初の女性宇宙飛行士になる事だったそうです。私は由美さんの話を聞いて、「由美さんの分まで頑張って、きちんと親善大使として役目を果たして日本に帰国しよう！」と思いました。「15年ぶりの日本からの交換留学生」と、モントゴメリーロータリークラブの皆さんからも、とても可愛がって頂きました。モントゴメリーロータリークラブの皆さんにはステイさせて頂き、本当に感謝しています。

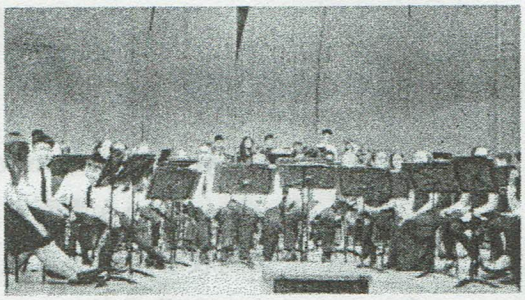
3つ目のホストファミリーに、小学二年生のホストシスターがいたのですが、ホストシスターが通っている小学校に何回かお邪魔させて頂き、日本について、また和歌山県田辺市についてのプレゼンテーションをさせて頂きました。私は将来、小さい子供たちに英語を教えてあげたいので、将来のために役立つ練習にもなり、また親善大使として、アメリカの小学生以外にも、モントゴメリーロータリークラブの皆さんに日本の素晴らしさや日本の美しさを伝えることが出来ました。

他にも、ロータリアンのJimさんという方に、「何か歌ってほしい！」と言われ、日本の国歌を披露しました。私が歌い終わったときに、Jim さんが「素晴らしい歌声を聞かせてもらった。そしてありがとう。」と、泣きながら言って下さいました。私は、泣いてくれたJimさんを見て、日本語の意味が分からなくても、また他の国で同じように歌ったとしても、音楽は国境を越えても繋がることが出来るんだと、改めて感じました。

これから海外に派遣される交換留学生の皆さんも、たくさんの不安と一人で知らない土地へ行くという恐怖があると思います。私も最初は怖くて泣いてばかりで、アメリカのロータリークラブから「帰ったほうがいいのでは？」と言われました。しかし、せっかく一人で海外に行けるチャンスを与えてもらい、最初は辛いからこそ、後から良い事が起こると思うのです。そして、両親や家族に感謝しましょう。一人で海外へ旅立つと、親へのありがたみが本当によく分かります。「一人だから怖い。」ではなく、「一人で留学出来た自分はなんてラッキーなんだ！」と考えるべきだと思うのです。一人で留学するからこそ、一人で海外へ旅立つからこそ、自分でしか得られないものがたくさんあると思います。最初は

辛いと思います。でもみんな辛いんです。最初から完璧な人はいません。挫折というものを味わう人も中にはいるかもしれません。でも、挫折して辛い思いを経験するからこそ、日本に帰国するころには人生、または世界観が変わると思うのです。辛いのは自分一人では無いという事を覚えておいてください。

最後に、この場をお借りし、ロータリークラブの皆さんにお礼申し上げます。最初の頃、ホストファミリーの件などに関してご迷惑をおかけし、本当に申し訳ありませんでした。また、留学中のご支援、ありがとうございました。一年間アメリカに留学することができ、また、たくさんの経験を得ることが出来たのは、ロータリークラブの皆さんのおかげです。本当にお力添え頂き、ありがとうございました。



青少年交換留学レポート

氏名：石谷　萌

派遣国：ドイツ

地区番号：D1841

ホストクラブ：Dachau RC

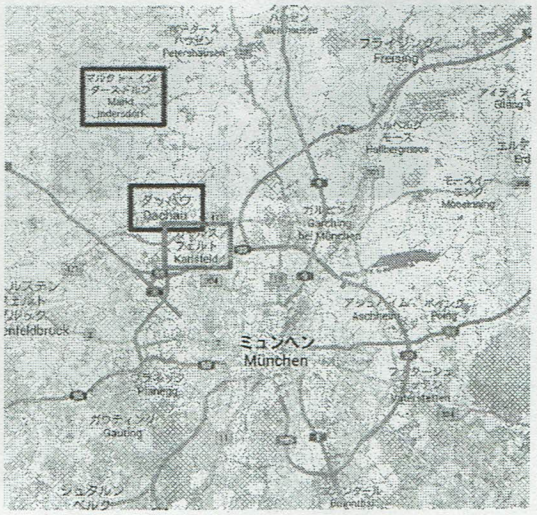
学校：Ignaz Taschner Gymnasium

出発日：2015 年 9 月 11 日

帰国日：2016 年 7 月 31 日

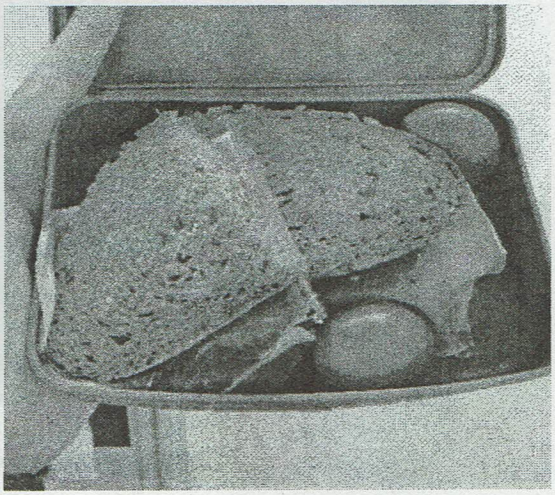
-私の派遣地域について

今回の Rptary youth exchange でドイツのバイエルン州にある München の近くの町、Dachau という場所を主に拠点として 1 年間生活をしました。
Dachau は強制収容所がある観光地です。小さいお城があり、お城の庭も広くて春にはたくさんの花が咲いています。
だいたい München からは S bahn(電車)に乗って 30 分ほどの町です。
強制収容所などもあり、たくさんの観光客も訪れる町です。学校も Dachau の町にあり、1st はバス、2nd は自転車、3rd は電車で通っていました。



-ホストファミリーと家庭文化、ドイツ人について

私は３組の家庭にお世話になり、それぞれ、Karlsfeld, Dachau そして Markt Indersdorf の３つの町に行きました。どの家庭もホストマザー、ホストファザー2人ともお仕事をなさっていました。
家庭の食事ではパンが主食で、日本で売っているようなパンとは違い、重くて少し酸っぱようなパンが多いです。また、朝食にはたくさんの種類のチーズ、ハム、サラミ、などが出てきました。(左、朝食　　右、学校用のお弁当)

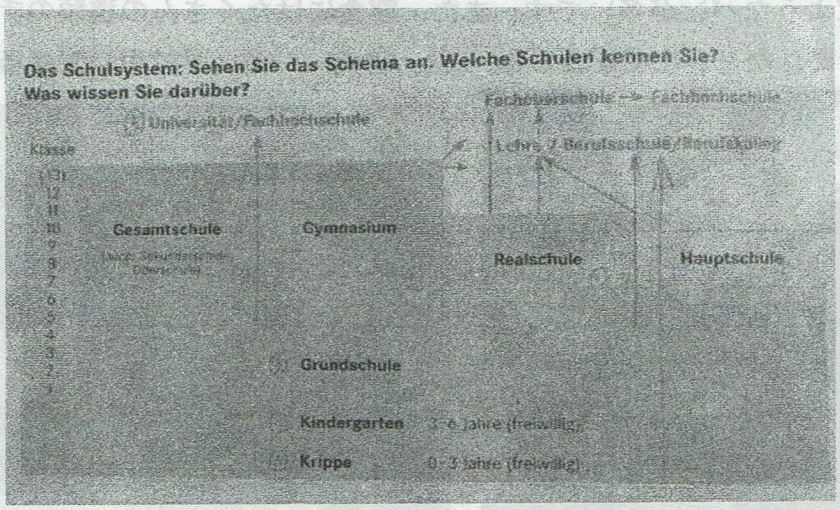


３家庭を回って感じたことは、どの家庭も就寝起床がとても早いです。だいたい 10 時、11 時頃には大人も子供も皆ベットへ行き、6 時頃には起きていたり、仕事や学校に出かけたりしていました。また、ドイツ人はとても家族仲が良く、私の知っている家庭の中では私と同い年くらいの子供達は反抗期のようなものが全くありませんでした。

-学校や労働時間について

ドイツの学校は少し複雑で、学校の種類が４種類あり、Gymnasium(大学を目指す中高一貫校),Realschule(実科学校、6 年制), Hauptschule(基礎学校、5 学年～9 学年まで)そして Gesamtschule(総合学校、3 つの学校を統合した学校)です。それぞれの学校により大学へ行くのか、職につくのか、など将来への目的が違うそうです。労働時間については平均で週 35～40 時間だそうで、残業もほとん

どみなさんすることなく、切り上げてきます。金曜日にはいつもより数時間早く切り上げ家に帰ってきます。土日には仕事はしません。街のお店もほとんど開店せず、パン屋とチェーン店のスーパー、郵便局などが土曜日の午前中だけオープンしている状態です。
休日は不便だなと思うこともありましたが、家族勢員で金曜の午後から土日全て休日としゆっくり過ごせる時間があるのはとてもいいなと思いました。



(学校の種類や主な進路)

-その他政治や義務、私が考えるドイツの問題について

ドイツは数年前まで徴兵制のようなものがあったそうです。韓国のように義務で数年訓練に行かなければならなかったそうですが、今はもうその制度はなくなったそうです。
そして私から見たドイツの問題について。
最近はだんだんと落ち着いてきているようですが、やはり難民問題、それから貧困の差を少し感じます。
ある学校では、運動場が難民の方への仮設住宅になり、外で体育ができない状態になっているそうです。それも今年だけの話ではなく、約５年間ほどこの状態が続くそうです。また、難民の方がほとんどで、たまにドイツ人の方がいるくらいですが、駅前などには日頃たくさんの人が、コップや帽子を自分の前に起き、お金をくださいと頼んでる姿が目立ちます。道端でヴァイオリンやアコ

ーディオンなどの楽器を演奏している方、歌を歌ってお金をもらっている方。などもたくさんいました。

最後に

今回、この留学に参加できたことを嬉しく思います。ドイツの文化や制度などを学べたこと、他の留学生と話してその子達の国の文化について知れたことなど、ドイツ以外にもたくさんの国のことを吸収できてよかったです。
上記に書いたこともちろんですが、やはり人との出会いが一番私にとって大きい存在だと思いました。たくさんの人にお世話になり、迷惑をかけてしまったこともありましたが家族や、友達、周りの人々に支えられ、この留学を乗り切ることができました。
次の留学生や、これから留学する人達には私のたくさんの失敗や後悔していることを伝え、サポートすることができたらいいなと思っています。
今回のこの留学で私の進学や就職への考え方や方向性が少しグローバルな方面に向き、進路の選択肢を増やすことができたなと思います。
具体的にどうしたいかと言われると少し言葉にするのは難しいですが、高専の技術も生かしつつ、ドイツと関わるのある企業に行ったり、大学に行けたらいいなと考えています。
最後に、2640 地区の皆様、そして私のスポンサークラブの御坊 RC の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げさせていただきます。本当に有難うございました。

インドネシアから

米田真生

こんにちは！インドネシアに留学させていただいてる米田真生です。９ヶ月が過ぎました。ここまで無事に過ごせていることにとても嬉しく思います。いつもサポートしていただき本当にありがとうございます。残り約１ヶ月精一杯楽しみたいと思います！今月のレポートです。

先日 ムスリムのラマダーンに挑戦しました。ラマダーンとはヒジュラ暦の第９月のことです。この月の日の出から日没までのあいだ、イスラム教徒の義務の一つ「断食」として、飲食を一切しません。「ラマダーン」を断食のことと思っている人が多いようですが、ラマダーンとはあくまでもヒジュラ暦における月の名なのです。この断食の習慣は、624 年、マッカの大規模な隊商をムハンマドが 300 人ほどの当時の信者全員と共に襲おうとし、それの阻止にやってきたマッカの部隊を返り討ちにできたことを神の恩寵と捉え、記念したことに始まったそうです。

私のホストブラザーがムスリムなので彼の真似をして４、５回断食に挑戦しました。方法は朝３時に起きて１回目のご飯を食べます。そのあと夕方５時半まで一切飲食しません。水さえ飲みません。私はお腹が空くというよりはすごく喉が渇きました。

断食にはもう一つのルールがあります。それは感情をコントロールしなければならないことです。怒ることは許されません。泣くこともです。悲しい映画をみて泣くこともできません。嘘をつく、誰かを傷つけるなども許されません。断食中常に穏やかな気持ちを保っておく必要があるのです。飲食をしないのも難しいですが、感情をコントロールするほうが難しいような気がしました。私は断食に４、５回挑戦しましたが、断食をするのは生まれて初めてで、初日はただ単に部屋でじーっとすることしか出来ませんでした。動いたりしたらお腹が空くし、出歩くと喉が渇いてしんどくなってしまうのではないか、、と思って何も出来ませんでした。そうこうしているうちに５時半になり待ちに待った２回目のご飯の時間です。これを BreakFast と言います。Fasting(断食)を Break（壊す）という意味です。これが今英語で朝食を意味する Breakfast の語源と言われています。断食終わりは直ぐにご飯やお肉を食べるのではなく、はじめにフルーツポンチの様な甘くて食べやすいものを食べます。糖分はエネルギーに必要なので必ずこの甘いものを食べてから、ご飯やお肉を食べ始めます。断食のあとのご飯はとても美味しく感じました。それに改めてこうして美味しいご飯を食べれることのありがたさを心から感じました。今、私たちは毎日三食食べるということはあたりまえになっていますが、世界にはそうでない人たちもいます。「食べることができる」と言うこのすごくありがたいことにもっと感謝しなければならないということを今回の断食で学ぶことができました。

Kehidupan di Indonesia

2016 .1.30
Maki Yoneda

Saya sudah tinggal di Indonesia 4 bulan . Itu terasa cepat .
Dan ini pertama kali saya menulis report menggunakan bahasa indonesia,
mungkin ada banyak kesalahan karena itu saya minta maaf.

Pertama , saya tinggal di rumah ibu Indri . Rumahnya traditional.
Waktu saya datang, saya sedikit kaget karena beda sekali dengan rumah saya di Jepang.
Dan juga saya gugup karena saya belum tau tentang keluarga di Indonesia.
Tapi sekarang saya bisa bilang keluarga saya bagus sekali.
Bapak dan Ibu merawat saya seperti anak mereka sendiri .
Waktu Ibu panggil saya " Anak kuuu" ,saya sangat senang !
Saya pasti tidak akan lupa itu.
Dan semuanya baik kepada saya.
Saya senang sekali saya bisa tinggal sama keluarga saya di Indonesia.

Saya sekarang belajar di SMA Negeri 6 Jogjakarta di kelas XI IPS 2.
Saya harus ikut setiap pelajaran . Itu susah banget dan saya tidak bisa mengerti. Tapi setiap hari saya coba belajar sama teman teman saya .
Waktu saya tidak bisa mengerti di kelas, saya belajar bahasa Indonesia sendiri pakai buku saya dari Jepang.
Mereka sangat baik dan selalu bantu saya.
Saya pikir, untuk lebih mengerti bahasa Indonesia, saya harus tulis itu dan bicara setiap hari.
Jadi saya membuat catatan saya untuk tulis bahasa Indonesia dan saya menulis sekarang.
Dan bahasa indonesia mengucapkannya susah banget.
Saya mau jadi bisa bicara bahasa indonesia seperti orang Indonesia,
jadi saya terus belajar.
Semua guru saya di sekolah sangat baik.
Waktu saya tidak mengerti, mereka tetap sabar untuk mengajari saya.
Saya suka bicara sama guru saya.

Saya paling kaget di indonesia tentang ada banyak macet setiap hari.
Di Jogjakarta ada lebih banyak motor daripada mobil.
Di Jepang ada lebih banyak mobil daripada motor.
Saya belum lihat jalan tol di Indonesia,
Saya pikir kalau ada lebih banyak jalan tol ,macet jadi sedikit.
Dan buat lebih banyak jalan untuk mobil saja.
Semua tidak suka macet jadi saya harap jadi macet sedikit.

Saya suka makanan Indonesia !
Semuanya enak sekali.
Terus sekarang saya jadi gendut banget daripada waktu saya sampai di Indonesia.
sedih banget. saya akan coba diet !
Saya paling suka Kuitiau, capcay, nasi goreng, ayam bakar,dan kerupuk!
Saya senang waktu makan makanan Indonesia ;)
Ini adalah cara saya untuk tidak stress.
Saya mau belajar gimana masak makanan Indonesia.

Nanti saya mau masak itu waktu saya pulang ke Jepang.
Karena saya pasti kangen makanan Indonesia!

Tinggal di Indonesia saya sadar agama itu penting
Waktu pertama kali saya sampai di Indonesia semua tanya saya tentang agama.
di Jepang biasanya semua tidak pikir tentang agama dan tidak tau tentang agamanya sendiri.
Karena tidak ada pelajaran tentang itu di sekolah dan jadi tidak ada kesempatan untuk belajar itu.
Jadi saya beragama Buddha tapi saya merayakan Natal, itu aneh .
Saya harus belajar agama karena saya pikir saya harus tau tentang agama saya.

Saya dihost oleh Rotary club Jogjakarta D3410
Ada banyak bapak dan ibu itu semuanya Rotarian.
Semuanya orang baik sekali
Saya sangat bersyukur akan mereka.
Kalau tidak ada mereka ,saya tidak bisa tinggal di Indonesia
Saya harus ikut rotary meeting satu kali di satu bulan.
Waktu itu, saya speech dan peresentasi tentang jepang dan pengalaman saya di Indonesia
Mereka memberi saya banyak pengalaman ,itu tidak bisa di Jepang.
Saya pergi ke banyak tempat sama rotary .
lalu ada liburan sama siswa pertukaran pelajar yang lain dari rotary
itu bagus banget !
Semuanya senang banget !
Saya sangat looking forward to go next trip
Terima kasih banyak Rotary saya untuk semuanya!

Di rotary ada teman teman saya dari kota yang lain.
2 orang dari Amerika ,1 orang dari Perancis 1 orang dari Brazil, 1 orang dari Mexico .
Saya bisa tau banyak hal dari mereka.
Sekarang saya tau sedikit bahasa yang lain karena mereka bicara bahasa mereka sendiri.
Punya teman teman dari negara yang lainnya itu menarik dan bagus.
Kami bisa tahu apa saja yang beda dari kami.
Saya sudah belajar banyak hal baru dari mereka.
Saya suka ini
Saya harap saya bisa menjaga hubungan yang bagus ini dengan mereka.

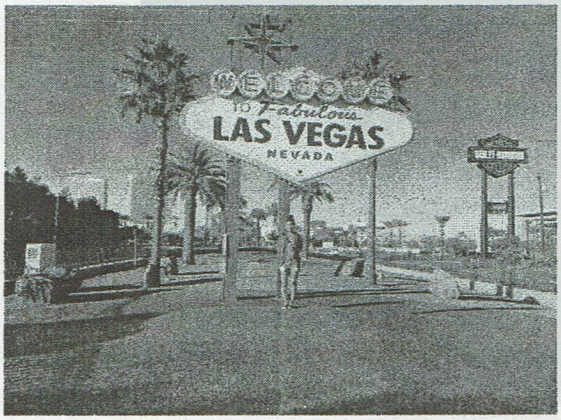
Saya masih akan tinggal di Indonesia selama 6 bulan.
Saya mau pakai waktu dengan hati hati dan mau belajar lebih banyak !
Saya masih punya banyak hal yang saya mau kerjakan di Indonesia.
Saya tidak sabar untuk coba lebih banyak hal baru.
lain kali waktu saya tulis report seperti ini, saya mau bisa tulis lebih bagus

Terima kasih banyak !

私が感じたアメリカ合衆国

・とにかく広い！

私は大変ありがたい事に、旅行に連れて行ってもらえる機会がいくつもありました。その中で、地球の果てかと思うほどの壮大な景色も目にしましたし 巨大電光掲示板が夜空にひしめき合う大都会へも出かけました。私はその度、同じ国の中の景色だとは思えませんでした。



・人は人自分は自分！

例えば、日本で肌寒い日に薄着で街を歩いていたとします。「あら あの人、こんな日になんであんな格好をしているの？」となるのが普通だと思います。しかしアメリカでは誰がどんな日にどんな格好をしていようと なにも気にしません。少しマニアックな例を選びましたが、これは他の事にも当てはまりますし アメリカ人の国民性の代表例だと感じます。

・

アメリカ映画は嘘じゃない！？

私はたくさんのアメリカの高校生活が題材の映画を見たことがありますし、皆さんもあ ると思います。しかし実際に１年間現地の高校に通うと 「あ！このシーン！なにかの映画で見た！」という瞬間に出会います。フットボールのホームカミングゲームは本当にアメリ

カ映画のエキストラになった気分で 見ていました。カフェテリアでのランチも、校内を歩くチアリーダー達でさえも、全てが嘘のようで、日本とは全く違いました。

最後に
私が一年を通して得たものの中で１番価値のあるもの、それは世界中から 同じ年に、そして同じ場所に派遣された留学生の友達です。大きすぎると思っていた世界が彼らに出会ったことで どこの国も手の届く範囲にあるようなそんな気分になりました。まだまだ行きたいところも見たいものもある、もう一度会いに行きたい人がいるそれだけでいまの私のモチベーションになりますし、そのモチベーションが未来の私に良い意味で大きく影響を与えるとおもいます。

このような機会を与えて頂いたことに感謝をしこの経験を将来に活かしていきたいです。

丸田　明里
（オースティン　ミネソタ）